

サッカー日本代表のイビチャ・オシム監督が緊急入院に見舞われ、あらためて注目されている脳梗塞。医療現場では、「tPA」と呼ばれる薬剤の治療が普及しつつある。2005年10月に保険適用され、後遺症を残さずに治るケースがある。その半面、使用の条件は厳しく、副作用への注意が必要だ。広島大学大学院の松本昌泰教授（55）＝脳神経内科学＝に、脳梗塞のtPA治療について聞いた。（上杉智己）

この病気 この治療

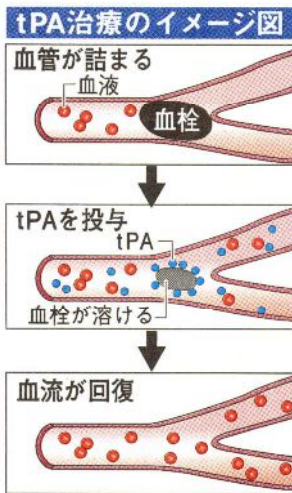
脳梗塞のtPA治療

広島大学大学院松本昌泰教授



「脳梗塞で年間約八万人が亡くなっています。脳の血管内に血栓（血の塊）が詰まるなどして、脳に酸素や栄養が行き渡らなくなり、脳細胞が壊死し、半身まひの後遺症や、最悪の場合は死につながる。脳内出血、くも膜下出血とともに脳卒中の三病型の一つで、脳卒中全体の約七割を占めています。」

「tPAは、どんな薬ですか。」



も血圧の数値などさまざまな条件をクリアする必要があります。なぜ三時間以内なので

ある。

発症後3時間に限定 後遺症なく社会復帰

脳の血管内に詰まっている血栓を溶かす作用がある。うまく働けば脳の血流が再開し、患者は後遺症がない状態で回復します。ただし使用するのは発症後三時間以内に限り、ほかに

すか。

血栓より先にある血管は、時間が経過するともろくなるため、血流が再開すると血管の壁が破れる恐れがあります。出血性脳梗塞と呼ばれる、tPAを投与し

「治療成績は、どうなっていますか。」

国内の治療では、tPAを使用した百三の症例のうち約37%が、三カ月後にほとんど後遺症のない状態で

死亡。米国での発生は6.4%で、うち2.9%が死亡です。tPAを処置しなかった場合を米国の症例でみると、出血性脳梗塞の発生は0.6%、うち死亡は0.3%でした。

「どの病院がtPAを手掛けていますか。」

日本脳卒中学会は、tPAを使用する施設の基準を設けています。CTが磁気共鳴画像装置（MRI）による検査が常時可能であり、学会専門医など急性期脳卒中中の知識や経験を十分に持つ医師がいることなどが条件。広島県内では〇五年十月以降にtPA投与を五例以上実施した医療機関は、広島大病院など十四施設を数えています。

社会復帰しました。米国でも百六十八症例のうち約39%が同様の結果となり、tPAを処置しなかった場合の約26%に比べ、社会復帰の割合は一・五倍高かったです。

「心配される副作用は、どうでしょうか。」

tPAの使用による「症状の悪化を伴う出血性脳梗塞」の発生は、国内では約5.8%、うち0.9%が

一刻を争いますね。

患者が病院に運ばれたからといって、tPAがすぐ使えるわけではない。血液検査やコンピューター断層撮影（CT）による診断が欠かせず、判断に時間がかかります。逆算すると病院へは、発症後二時間以内に

「脳梗塞のtPA治療」についての質問・相談を募集します。郵便、ファクス、メールで中国新聞報道部「この病気この治療」係まで。掲載は匿名ですが、住所、名前、年齢、性別、電話番号を明記してください。

なくとも起こりうる。血管の破裂を起こさないために、とにかく早く着手しなければならぬのです。

「一刻を争いますね。」

患者が病院に運ばれたからといって、tPAがすぐ使えるわけではない。血液検査やコンピューター断層撮影（CT）による診断が欠かせず、判断に時間がかかります。逆算すると病院へは、発症後二時間以内に